

第63回石川県児童・生徒科学作品コンクール 募集要項

1 趣 旨

児童・生徒の科学に対する関心を高め、研究心を養い、創造的能力の育成を図る。

2 主催・共催

石川県科学教育振興委員会、石川県教育委員会、石川県科学教育振興会

3 応募資格

県内小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒
 学校種別については、小学校に義務教育学校の前期課程、中学校に義務教育学校の後期課程を含むものとする。

4 応募方法

(1) 小学校・中学校の場合は、下記の地区審査会に応募する。その中で選考された作品を地区審査委員長が、県審査会へ提出する。

各地区審査会においては、作品の基準、送り先、受付期間など、応募に関する詳細を定め、市町教育委員会を経て、学校長あて通知する。

地区	郡市名	地区	郡市名	地区	郡市名
加 賀	加賀市	金 沢	金沢市	七 尾	七尾市・鹿島郡
小 松	小松市・能美市・能美郡	河 北	かほく市・河北郡	輪 島	輪島市・鳳珠郡
白山・野々市	白山市・野々市市	羽 咋	羽咋市・羽咋郡	珠 洲	珠洲市

(2) 高等学校、特別支援学校の場合は、学校長が推薦する作品を、直接県審査会へ提出する。

5 作品受付

令和元年9月11日（水）までに、石川県科学教育振興委員会事務局（石川県教員総合研修センター内）へ提出する。

6 審 査

石川県科学教育振興委員会が委嘱した委員で審査し、小学校・中学校・高等学校の各部門ごとに、最優秀作品4点以内、優秀作品10点以内（小学校は15点以内）、優良作品を選定する。

7 表彰の種類

次の(1)～(2)の2つに分ける。原則として、応募のあった全作品が表彰の対象となる。

(1) 一般表彰

小学校・中学校・高等学校各部門において、最も優秀な作品から順に次の表彰を定める。

- ① 石川県知事賞（1点）
- ② 石川県議会議長賞（1点）
- ③ 石川県教育委員会賞（1点）
- ④ 石川県科学教育振興会長賞（1点）
- ⑤ 優秀賞（小学校は15点以内、中学校・高等学校は各10点以内）
- ⑥ 優良賞

(2) 学生科学賞

中学校・高等学校の各部門における上位14点以内について、次の表彰を定める。

- ① 最優秀賞（3点以内）
- ② 優 秀 賞（11点以内）

8 表彰式

日時： 令和元年10月26日(土) 13:30～14:30
会場： 石川県教員総合研修センター

1 展示会

入賞作品を展示し、一般にも公開する。

展示会(1) 石川県教員総合研修センター会場

日時 令和元年10月26日(土) 13:30～16:00

場所 石川県教員総合研修センター(1階ホール, 101研修室 他)

(2) 金沢会場

日時 令和元年11月9日(土)～13日(水)

場所 金沢市長土堀青少年交流センター(金沢市長町3丁目3番3号)

(3) 珠洲会場

日時 令和元年11月22日(金)～24日(日)

場所 飯田わくわく広場(珠洲市飯田町16部21番地1)

(4) 小松会場

日時 令和元年11月27日(水)～12月1日(日)

場所 小松市民ギャラリー「ルフレ」(小松市丸の内公園町19番地)

(5) 河北会場

日時 令和元年12月7日(土)～8日(日)

場所 津幡町文化会館「シグナス」(河北郡津幡町北中条3丁目1番地)

10 その他

- (1) 応募作品には、A5サイズのケント紙で作成した別記様式による出品票を貼付する。
- (2) 小学校部門の優秀な作品のうち、上位4点を全国児童才能開発コンテスト(科学部門)に出品する。
- (3) 学生科学賞の最優秀賞作品は、日本学生科学賞中央審査に出品する。
- (4) (2)への応募条件より、小学校部門への応募は、他のコンクールに応募していない作品に限る。同様に、(3)への応募条件より、中学校部門では自然科学観察コンクール、高等学校部門では高校生科学技術チャレンジ(JSEC)に応募していない作品に限る。
- (5) 作品の返却は、令和元年12月中旬以降各地区審査会が行う。
- (6) 問い合わせ先
石川県教員総合研修センター内
石川県科学教育振興委員会事務局 担当 上原
住所：〒921-8153 金沢市高尾町ウ31番地1
電話： 076-298-3515 (代表)
FAX： 076-298-3518

出品票の記入上の注意について

- 共同研究の場合、グループ全員の学年・個人名を記入し代表者には◎を付けてください。
- 部活動・クラブ活動・学級活動などの場合は、グループ名も記入してください。
- この用紙に記入いただいた内容は、新聞発表、賞状、入賞者パンフレットなどに記載されます。
誤りがないよう正確にご記入ください。
- 作品の概要については、下記の例文を参考にして記入してください。展示会において、作品の解説文として活用します。

例1	レインボーフラワーを見た経験から、ヒルガオの水の通り道について、その秘密を解明するため仮説を立て、モデルを作り、実験で検証している。 様々な着色パターンについて、丁寧に実験をし、結果から生じた新たな疑問について、追究している。花柄と主茎の接している面の液が通ることを、スケッチや写真を組み合わせながらわかりやすくまとめていた。ヒルガオの花柄の付き方や順番が「5」の数字と深い関係があることを見いだしていた。ヒルガオの道管のつくりを理解し、葉のつき方と光合成まで考えている深みのある研究である。
例2	千里浜海岸の砂を島尾海岸の砂と対比させ、液状化現象が起こる条件について調べた。千里浜海岸では、砂の粒子の大きさは0.15mmで均一になっており、地下水位が高いことから液状化現象が起こりやすく、弱い地震でも長く揺れが続く場合、液状化現象が起こる可能性が高くなると結論づけている。液状化現象が起こる条件だけを考えるのではなく、小石、赤玉土、消石灰をまぜて、液状化を起こりにくくする条件を追究し、粘性がある赤玉土が有効であることを導き出している。
例3	カエデの種のすじに視点をあて、そのすじの存在が、落下するときの回転運動をスムーズにさせるつながりがあることを解明した作品である。 種のすじの有無により、2mの高さから床に落ちるまでの時間や落下するときの様子等が違うことから、目に見えない空気の流れの違いがあることを、絵の具を使った水の中で模型の種を動かし、すじ有りでは細かい渦がたくさんできることを見つけていた。それがカエデの種を水平に保つ要因だと突き止めている。ドライアイスを使って、カエデ型竹トンボの流線型が空気の流れを広範囲で変化させていたことを突き止め、去年のなぞも解明することができた。
例4	冬季によく使うカイロについて、成分である食塩・鉄粉・活性炭・パーミキュライトなどはたらきを、理科の授業で学んだ知識を生かして分析しながら実験を進めている作品である。思ったように実験が進まなかったが、そのような場面でもしっかり考察することで新たな課題を見つけ、カイロについて多角的に調べることができた。最終的には使用後の成分である酸化鉄を炭素で還元することにより、カイロを再利用することに成功した。

----- キ リ ト リ -----

[出品票]

作品名 (副題も含める)		構成点数	
学校名 (電話番号)	— —	学校長氏名	
ふりがな		担当教員氏名	
学年・氏名 (グループ名)			
作品の概要			

